

理想的帰郷のしかた

○の武史

☆はじめに、

題目と関係の無い事であるが、今年は部誌が配られるのが恐ろしい。毎年へ部誌の中で必題名として、夏合宿があるからである。とうとう原こうも書きつつも、夏合宿を千ヨンボした自分に対する、嫌悪感がおこる。にもかかわらず、また春合宿も千ヨンボしような自分に対して限り無い落さこみノビにほともあか、今まで何夜も東京⇔高知の間を行きまわっているの、色々と思いつくまま書いてみる。

理想的帰郷のしかた、

今まで、何回東京→高知をたど、たのびるう、高校2年以後で飲してみたい。高校2年(一)入試のこた(下)大学(正下)合計12回であった。バラエティーとしては、飛行機(直別(大既経由) 国鉄(新幹線+土讃線)(大垣行き+大既+普通+船)(新幹線+船+バス)、自転車+車+船+国鉄等である。もちろんこの中で最もラクチンなのが、飛行機である。朝に東京を出れば、昼食は、自宅である。またその時間、東京→青梅と同じ時間なのである。しかしながらこれは、あまりにあ、けない。かとい、て、自転車で5日もかけて、帰った時は、死ぬほどしんどか、た。私のベストチョイスとし

ては、やはり、新幹線+中野線+船+土讃線のオータム
ックスなルートである。

さて、上に示した理想的ルートに従って思いを膨らませ
てみよう。

出発するのは、午前6:30である。当然なら、東京駅で
自由席に座るべく、早急のためである。天気は、小雨が
適当である。理由は、帰途が雨になると、傘がその後
とに増えるからである。

AM 9:00よりすこし前位の新幹線「ひかり」に乗り込む
客は丁度全部座がうまる位が多い。もう少し俺はE席に
すわる。E席は、進行方向に向。右側の窓である。
「ひかり」は、音も無くすべり出す。そして有らく町あ
たりまで、ややカためしめて、あとは大崎まで、ミドリ電
車や、青電車や、ワートン電車や、赤電車にどの勇まし
い姿を見せ伏す。ほと無く多摩川をあたり、中原街
道をいになると、にあかに全力で走り出し、特有のム
ーカタン！ムーカタン！ムーカタン！という音を出しながら
逃走する。

新横浜の駅を過ると、以前の下宿にひ。こす時、トラ
ックでドライブし、K氏が駅前の所で何度もエンストし

た事を出し、ニコリとする。

となり座るのは、必ず男である。また30才以上のシエントルマンはいいが、時々はヤウガのオジエトや、バカ大学生が座る。シエントルマンの読み物は、通商現代誌で、以外はエロトピアを代えとする俗マンガである。やはり、シエントルマンの方がよい。俺は、富士市のあたりまで東京で買、たサンデーを読んでいる。そして富士山がうしろへまわると、ウトウトしている。フッと長がつかと、駅名標である。このあたりを確か飯木の家に着くあ、たカローラで、案内してもら。たすと、吾良の事の祥に思い出す。

岡ヶ原で電がふ、ているとおもしろい。時に2時間10分遅れになると、大塚から岡山の間で新幹線が、満身の^力を出して走り岡出までた遅れを1時間59分たしてしまうからである。しかしながら、定刻に遅れる事は正に致命的な不理があるので、理想とは言えない。従って、待車駅ごとにバカずらして待っている人の顔でもながめつつカーガタン！カーガタン！と岡山に着く方がよい。

宇野線はいつも長分が悪いのであまり書きたくない。ので書かない。

宇野からは待望の船である、こ木には阿波丸とか色々ある

が俺が乗るのはもちろん「佐佐丸」である。船に乗ると、
ま、すぐに、うどんの売店に行く。出航するとすぐにう
どんが売り切れてしまうからである。最初かけうどん、
続けでまた、月見うどんを食う。食い終、でフッと目を
上げると、もう「徳島が見えるのである。やあ、キャピ
ンに入り見のむく時はビール等をもむ。もうそこらへん
に土佐弁が聞こえる。

「まだ高松に着かんかえ？」

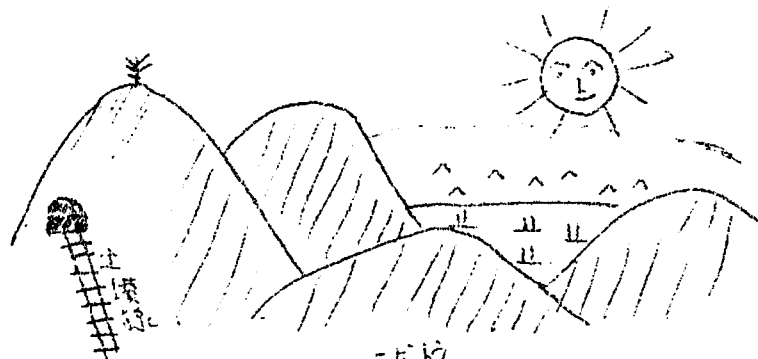
子供の輩にバアさんが、

「まあ、と待ちよりなさい。もうす、と着くまじ
なつかしいもんだなあ、四ヶ島ぶりに土佐弁で太いらに
しゃべれる。げにま、ことうれしいせよ！」

高松に着くとまず、席を確保する、そして、マガジン
を買、で鏡とているうちに発車である。対面は25〜26才
位の女の人、となりはバアさん、バアさんの対面は、エ
ロトピアを代表とするマンガを読ま人が理想である。照
らぬうちに阿波池田。

阿波池田では、そばとうどん等に付、ている。小しきま
振卡も思うが、高松ではうどんしか売、てないが、池田
はそばしか売、ていない。そばをすす、ているうちに、

となりのバアセと話し始める。もつろん標準語である。バアセは、必死に土佐弁をかくしながら話すか、嘘だである。これを見とどけると、こちらも土佐弁にスイッチを入れかえる。話しているうちに、対面のオエエも話しにかける。三人の話はつきないが、エロトピアは、ただ一人だまって、三人の話を聞いていいる標であり聞いてるいようでもある。



話し込んでいるうちに列車は、^{三軒}繁蔭も過ぎる。そして、ついに目を窓の外にむけると、山あいから見える青い海に大きな太陽が沈もうとしている。東京の雨はうその様な天気である。列車は山を下り、ほどなく後免^{ゴクワン}に着き、長が。た回鉄も終る。そして、そこにはオヤシが居る。愛車エロナにポンピングしながら、自作満々家まで着く。時はPM7:00である。待っているのは、酒と魚と母である。

や、と帰り着いた。こう思いつく酒に手をやるのが理想である。

(示) 示

今年の評語は、=ページ単位なので余ってしまった。実は本当は、「理想的帰来のしかた」が書きたかったが、書けない。ウジウジしながらモヤンビを決定。果して、昨年の評語に目移す。

既の付いた草子ゴーツ目。三浦さんは、今年第2部を巻くのでしょうか？また木さんの最後には「つづく」となっておりますが、私はこれは絶対の誓句にすぎない率百も。う知ですが、そこを見のがさず。また木さん等も知らず。大。代りに書ってしまうのが私の悪いせいです。

ゴメンナサイ。

